

熊本の宝を後世へ

細川コレクション
永青文庫推進事業

熊本県教育庁文化課
熊本県立美術館

熊本県立美術館のご紹介

- ・ 特別史跡「熊本城」の二の丸広場の一角に位置
- ・ 昭和51年3月に開館
- ・ 古代から現代美術までを網羅する総合美術館
- ・ 考古、絵画、版画、彫刻、工芸、書跡などを収蔵・展示
- ・ 令和元年度から令和4年度の本館入場者数の平均は約10万3千人



細川コレクション 永青文庫推進事業の概要

永青文庫とは？

- ・ 熊本藩細川家に伝わる美術工芸品や歴史資料を保存・研究するための公益財団法人
- ・ 細川家第16代・護立氏により設立

**国宝8点、重要文化財35点を含む
約9万点のコレクションを所蔵**



絹本著色黒き猫図（菱田春草筆）

細川コレクション 永青文庫推進事業の概要

熊本県立美術館では

- ・ 1,836点を寄託品として収蔵
- ・ 細川コレクション常設展示室を設置し、永青文庫の武具や古文書、美術工芸品等を展示

**貴重なコレクションを広く
公開し、文化振興を図る**



細川コレクション常設展示室

細川コレクション 永青文庫推進事業の大きな柱

- ① 展覧会事業
- ★② 調査事業
- ★③ 修復事業
- ④ 啓発事業
- ⑤ 広報事業

② 調査事業

熊本城十八間櫓に保管されていた一部の細川コレクションを、昭和57年頃から県立美術館収蔵庫に移動

- ・ 詳細を把握するため、平成20年度から令和4年度まで悉皆調査
- ・ 調査成果を4冊の報告書にまとめ刊行

**寄託品の詳細が明らかとなり
公開活用が進む**



収蔵庫の状況・
調査風景

③ 修復事業

経年変化等により損傷し、展示困難なものも多数存在

- ・ これまでに、鎧兜など3点、絵画作品11点を修復
- ・ 修復後、3点が熊本県の重要文化財に指定

修復によって、価値の再認識が進む



県指定重要文化財
《紅糸威腹巻》

③ 修復事業

修復事業の一例...

《一の谷・屋島合戦図屏風》

- 全体的な損傷が激しく、屏風を解体して本格的な修復を実施
- 令和3年度・4年度の2か年で修復所要額1,219万1千円

修復によって作品本来の魅力が蘇る



修復前



修復後

③ 修復事業

修復作品の公開活用...

《一の谷・屋島合戦図屏風》

- ・ 令和5年度に修復後の姿を公開
- ・ 修復によって、展示ケース越しでも作品の魅力が伝わるようになった

**修復後の作品を展覧会等で
展示し、活用が進む**



展示の状況

③ 修復事業

令和5年度修復中
(所要額：501万9千円)

令和6年度・7年度修復予定
(所要額：1,460万2千円)



《桐九曜紋唐草蒔絵鞍・鐙》



横山大観《雲去来》

③ 修復事業

令和8年度以降修復予定作品の一部
(13点、所要額概算：1億1,050万円)



《狂言面 賢徳》



《九曜紋金物牡丹唐草
絵巻女乗物》



《領内名勝図巻》



《朱札紅糸威
二枚胴具足》

細川コレクション 永青文庫推進事業の意義

調査や修復を行うことによって...

- ・ 今後の美術館での展覧会活用にも繋がり、
展覧会の魅力をさらに向上させることができる
- ・ 新たな文化資源の創造によって県民・国民
共有の財産として、未来に継承することができる。

細川コレクション 永青文庫推進事業の意義

熊本の貴重な宝を公開展示することで...

- 熊本県の文化・観光の振興に資する
- 展示を通して熊本県の歴史文化を身近に感じ、郷土を理解し、郷土を愛する心を育む

企業の皆さまへのお願い

- 美術品の修復だけでも、これから1億円以上の費用が必要です。
- 現在、県の永青文庫常設展示振興基金を財源として修復等を行っていますが、あと3、4年で枯渇する見込みです。

企業の皆さまのメリット

- 本事業に寄附を行うことで、貴重な文化・芸術を後世に引き継ぎ、サステイナブル（持続可能）なものとするSDGsや、文化芸術の振興に取り組む企業としてのPR効果が期待できます。
- ご寄附いただいた企業様は、熊本県のホームページやSNS等でご紹介させていただきます。
(参考URL：
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/125/154744.html>)

今後も細川コレクション永青文庫推進事業を行い、
熊本の貴重な宝を後世に伝え、
多くの皆さまに広くご覧いただく機会を創出
するため、
皆さまのご協力をお願いします。

【お問合せ先】

熊本県教育庁文化課 文化財活用班

TEL：096-333-2707

熊本県立美術館

TEL：096-352-2111